



2月中旬から3月上旬までの開館予定



日	月	火	水	木	金	土
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	2 February		
3 March				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10

□ 8:30-21:30

■ 9:00-19:00

□ 10:00-17:30

■ 9:00-17:00

■ 休館館

左図が試験期間終了後の図書館の開館予定ですのでご覧ください。

春季休業期間中は長期貸出となり、普段よりも長めに借りる事が可能です。2月2日(木)～3月27日(火)の間に借りた図書は、返却日が4月10日(火)になります(※)。

※但し、卒業生の方は3月31日(土)までの貸出となります。また、延長はできませんのでご注意ください。



CONTENTS

ライムのぼんやりトーク

つぶやきライム

○第23回/魔法にかかったサリーちゃん

お薦め図書
○アウェイ・スタンバーク『刑務所図書館の人びと』「1年をふりかえって」
図書館コンシェルジュの

2月中旬から3月上旬までの開館予定

図書館コンシェルジュの

1年を
ふりかえって

2011年度・図書館コンシェルジュの活動もいよいよ大詰め。コンシェルジュに、1年間の活動をふりかえってのコメントをもらいました。



来年度から、小さな町の司書になります。図書館にこうして関わられた事を良き糧とし、活かしたいと思います。コンシェルジュのみんな&職員の皆様ありがとうございました！

Y.S(人文社会科学部)

コンシェルジュとして、ちょっととっつきにくい図書館の職員さんよりも、少しだけ学生のあなたに近い立場でご案内したい、と思って務めました。お役にたてたら幸いです。

Y.F(法文学部)

図書館にて 根性ないと続かない シェアする思い出いっぱいの類が友を呼ぶ 充実の日々。ちっぽけな自分と偉大な自分。両方感じられるお仕事ここにあり。貴方もいかが？

H.A(人文社会科学部)

1年間でブックコンパスや、図書館の飾りつけなど充実した活動ができてよかったです。

K.M(法文学部)

カウンターの向こうといえば未知の世界でしたが、なんとかやってこれたのは、ひとえに職員の方々とメンバー、そして利用者の皆さんの温かいご支援あってこそです。御礼申し上げます。

T.O(人文社会科学部)

島大図書館は少しずつ、そして着々と変化してきています。是非、図書館に訪れて、その変化を肌で感じてみてください。

K.T(生物資源科学部)

少しでも利用者さんのお役に立つ仕事ができれば幸いです。ぜひたくさん図書館を利用して、学生生活の様々な場面に生かしてください。

N.K(人文社会科学部)

僕は、コンシェルジュの活動を通してたくさんの方々と出会い、成長することができました。利用者の方々にも温かい目で見てください。来年もやります！

A.O(総合理工学部)

図書館へ行き、本を読む。その本の内容に関係なく、知識は増えていくはず。図書館にある多くの本で知識・世界を広げてみてはいかがでしょう。

W.H(法文学部)

思っている以上に図書館は便利で大学生活において重要なものだと思います。どんどん図書館を利用して、わからないことがあれば図書館コンシェルジュを頼ってください。

T.Y(総合理工学部)

—少しでも利用者さんのお役に立つ仕事ができれば幸いです

自分の中で多くの発見をした期間でした。改めて図書館の魅力を感じました。とてもやって良かったと思うし、もっと学生さんに積極的に利用してほしいと思いました。

M.M(生物資源科学部)

コンシェルジュとして活動して、活動前より図書館を使いこなせるようになり、自分の学業の役に立ったので、やって良かったと思える活動でした。

H.Y(法文学部)

コンシェルジュは日頃、図書館を利用して、「ここをこうしたらいいのに…」と思ったことを、自分たちで実現できるお仕事です。図書館をより良くしていきたい方は是非！

S.K(総合理工学部)

コンシェルジュを通して、図書館の様々なサービスに気付きました。利用者みなさんも積極的に関わってみてください。あなたの方法で図書館をもっと利用しちゃいましょう。

K.M(生物資源科学部)

★お薦め図書★

このコーナーは毎回様々な人が選んだお薦めの本を紹介するコーナーです。
今回は法文学部社会文化学科 4 回生の図書館コンシェルジュ推薦図書です。

刑務所図書館の人びと:ハーバードを出て司書になった男の日記

アヴィ・スタンバーグ 【NDC:936 /St3 本館 1F 閲覧室】

「受刑者の中で、いちばん司書にむいているのが風俗の男。逆にまったく向いていないのがサイコキラーと詐欺師。」これから紹介する本の最初の 1 文。なかなかエッジが効いている。あ、2 文だった。

あとがきを先に読む派のためにあとがきの最初の 2 文も。「いわれてみれば確かにありそうだけど、いわれるまでは考えたこともなかった……そんなものがたまにある。たとえば刑務所の図書室。」自分はこちらから目を通して、即ノックダウンだった。

だって、ただでさえ大学図書館というちょっと特殊な図書館にかかわっているのに、そんなの比較にならないくらい特殊な図書館があるじゃないか、とあとがきで明示され、それならばと本文に取り掛かる。そうすると 1 行目から刑務所図書館ならではの気の利いた言い回し。島大図書館と言うならばと思ったけど、こんなにかっこいいのはとても浮かばない。

事実は小説より奇なりなんて、使い古された言葉を使うのも癪だけど、著者の体験はまさしく奇なり。

アメリカならではのたくさんの宗教や民族、かわった思想や経歴の持ち主たちが、入れ代わり立ち代わり図書館にやってくる。彼らに共通しているのは犯罪者と言うことだけで、図書館に来る目的だっただけ。

たくさんの受刑者のなかでも気になった人を紹介してみよう。

その受刑者は、著者の開いた創作のクラスに参加するも、なぜか授業には参加しようとせず、窓の外ばかり見ている。やがて判明するのは、窓の外でバスケットボールをしているグループの中の一人が、彼女が捨てた実の息子で、それを知った著者は……。

続きはぜひご自分で読んで確かめてください。今まで全く知らなかった、できれば一生縁がないとうれしいそんな世界のお話です。
(FY)

つぶやきライム～図書館職員のメッセージリレー～

第 23 回 魔法にかかったサリーちゃん

小学生の時の人気テレビ漫画「魔法使いサリー」。「たけくらべ」を読んでいたサリーちゃんが魔法を使ってストーリーの中に入り込み、美登利や真如の運命を変えようとしたけれどとうとうできなかった、というお話があったのを覚えています。読書の醍醐味を象徴した、「魔法使いサリー」の一話と言えますが、当時の子どもたちがレベルの高い読書の世界にいたことも窺われます。

読書の醍醐味は、やはり、サリーちゃんのように、本の世界に主体的に入り込むということから生まれるわけですが、逆に言えば、活字に主体的に関わろうとしなければ読書の世界には入れないということでもあるでしょう。それは、読書体験が、対象に主体的に関わろうとする人間を育てることになるということでもあると思います。

このあたりがテレビやコンピューターゲームとは違うところです。テレビやゲームにも主体性を求められるところはありますが、立ち止まって考えてみるという主体的な行為は少なくなってしまうように思います。どうしても「あてがわれている」、「させられている」という部分が多いのではないのでしょうか。

それに、テレビやゲームは、初めから具体的な映像としてイメージが割り当てられています。しかも、高い娯楽性が求められるために芸術性は低くなりがちです。映画もテレビなどと同じ映像ではありますが、監督と役者の感性や芸で作り上げられる結果、芸術性の高いものになっているように思います。

書物にも娯楽性を追求するだけで芸術性の低いものが少なくありませんが、評論であれ文学であれ、著者の感性で推敲を重ねた結果、映画のように芸術性の高まっているものが多いと言えるでしょう。そうした芸術性の高い文章から、読者がそれぞれのイメージを主体的に作り上げていく過程が読書体験であると思います。

「たけくらべ」の世界に入ったサリーちゃん、魔法を使ったというのは私の記憶違いで、実は、読書という魔法にかけられたというお話だったのかも。

(T.Y)



みいんちゃん

ついに図書館の改修に関する大まかなスケジュールが発表されたね。



けんさくくん

ほんとだ、入り口横の掲示板に貼り出してあるね。わっ、全面的に閉館になる期間があるよ！



ライム博士

そうなんだ。でも基本的には閉館になるのは休業期間。その間に本の引っ越しをすませるんだ。授業期間中は一部だけ使えなかったり、仮設図書館で対応したりと、少しでも困る人が出ないように配慮したスケジュールなんだよ。



けんさくくん

そうなのか。改装後の図書館がどんなふうになるのか、今から楽しみだね。



ライム博士

そうだね。改装のスケジュールに関しては、LiMe 来月号にも掲載するのでよくチェックしてほしい。